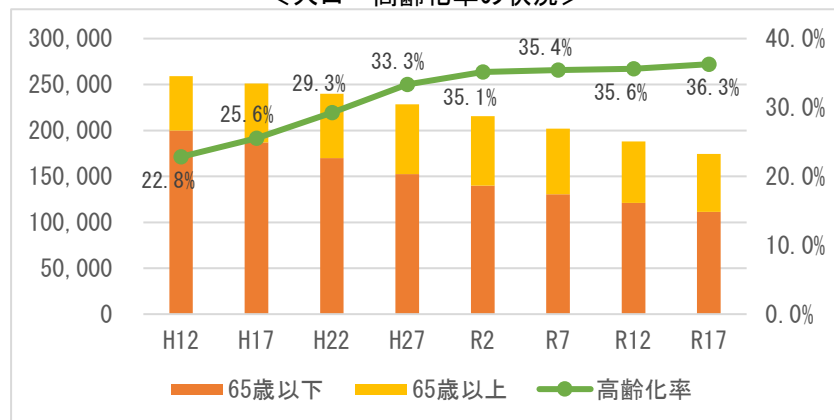


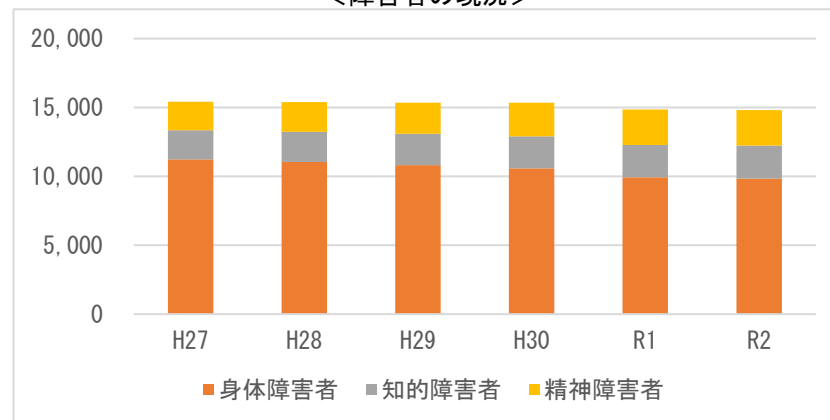
### 1 人口や高齢者，障害者等の現況

- 本市の人口は減少傾向にあり，令和17年には現在より約4.5万人減少し，約17.5万人になると想定されています。
- 高齢化率は平成12年は約23%でしたが，令和2年では約35%と上昇しており，令和17年までは，ほぼ横ばいのまま高止まりすると想定されています。
- 障害者数は約1.5万人で，本市の人口の約7%です。

＜人口・高齢化率の状況＞



＜障害者の現況＞



＜呉駅周辺地域総合開発イメージ＞



### 2 公共交通，公共施設等の現況

- 平成13年の現行の基本構想作成から約20年が経過し，新たな道路，旅客施設，公共施設，商業施設等が整備されています。
- 「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点の形成」を基本理念とした呉駅周辺地域総合開発により，JR呉駅を中心とした地域の新たなまちづくりを進めています。

### 【公共交通機関の現況】

- 本市の軌道系交通網は、JR呉線が海岸線に沿って東西方向を運行しています。
- 市内には13のJR駅が存在し、市内外への移動に利用されています。
- 路線バスは、広島呉道路（クリアライン）や一般道路を経由する路線などがあり、これらのほとんどはJR各駅を起終点としています。
- 路線バスが運行していない市街地縁辺部や島しょ部においては、路線バスと連絡する生活バス、乗合タクシーが運行しています。
- 主な航路は呉港から発着しており、周辺島しょ部、広島市、四国（松山）間を運航しています。

<公共交通ネットワーク>



### 【JR駅の現況】

○市内のJR駅の内、一日平均の利用者数が最も多い駅は呉駅で2万人を超えており、新広駅及び広駅が7千人、安芸阿賀駅が4千人を超え、これらの駅に続いて吉浦駅が約2千4百人となっています。

○段差の解消、障害者用トイレ及び視覚障害者誘導用ブロックの設置の全てが完了しているのは呉駅、安芸阿賀駅、新広駅及び広駅で、その他の駅についても、順次バリアフリー化が進められています。

＜呉市域JR各駅 一日平均利用者数（令和元年度※<sup>1</sup>）とバリアフリー化の状況＞

駅名	一日平均利用者数	運営形態	バリアフリー化の状況				
			段差の解消	障害者用トイレ	誘導用ブロック	障害者対応型改札口	障害者対応型券売機
呉ポートピア	1,710	無人駅	×	×	○	○	○
天応	1,154	無人駅	×	×	○	○	○
かるが浜	414	無人駅	×	×	○	○	○
吉浦	2,418	窓口閉鎖時間あり	×	×	○	○	○
川原石	994	無人駅	×	×	○	○	○
呉	21,154	運行時間中駅員常駐	○（エレベーター）	○	○	○	○
安芸阿賀	4,684	窓口閉鎖時間あり	○（エレベーター）	駅舎外あり	○	○	○
新広	7,076	窓口閉鎖時間あり	○	駅舎外あり	○	○	○
広	7,300	運行時間中駅員常駐	○（エレベーター）	○	○	○	○
仁方	1,024	無人駅	○	×	○	○	○
安芸川尻	1,526	窓口閉鎖時間あり	×	×	○	○	○
安登	716	無人駅	×	×	○	○	○
安浦	1,180	窓口閉鎖時間あり	×	×	○	○	○

※<sup>1</sup> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な利用者の減少が見られるため、令和元年度のデータを採用しています。

### 【路線バス等の現況】

○呉市地域公共交通網形成計画において位置付けられた交通結節点の主要なバス停の一日の平均利用者数は、JR各駅と比較すると少数となっています。

＜交通結節点の主要なバス停におけるバスの一日平均利用者数（令和元年10月～令和2年9月※<sup>2</sup>）＞

交通結節点（バス停名）	一日平均利用者数※ <sup>3</sup>	乗継可能な路線	
昭和地区（昭和市场センター）	882	（路）焼山熊野苗代線 （生）昭和循環線中央コース、昭和循環線南コース等	（路）路線バス
警固屋地区（銅椀橋）	692	（路）宮原線、呉倉橋島線 （生）阿賀音戸の瀬戸線、田原藤の脇線等 （乗）おでかけバス	（生）生活バス
広地区（広市民センター）	700	（路）広仁方線、郷原黒瀬線、西条線 （生）広長浜線、広川尻線	（乗）乗合タクシー

※<sup>2</sup> 令和元年10月に路線バス及び生活バスの路線再編があったため、その後の年間を通じたデータを採用しています。

※<sup>3</sup> 乗継利用者数が不明であるため、最も多い路線バスの利用者数としています。